



学校情報・生活情報・勉強情報満載！

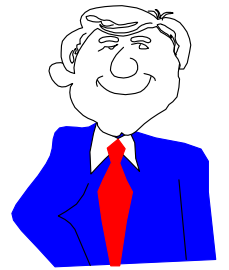


発行日
7月5日(火)

あむーる

No.6

島根県立松江北高等学校14R学級通信 第6号



■昔ある雑誌で読んだ言葉が心に残っています。進路選択を考える上での「心構え」を語った文章です。参考にしてください。

進路選択は自分を仕立てる一歩

全国商業高等学校協会理事長
白鳥 政男

「人生において最も大切なことは、職業の選択である。しかし、偶然がそれをきめる。」 (パスカル)

職業を選ぶということは、自分自身で生き方を選ぶことであると言われればどの会社(あるいは学校)にしたらよいのか、悩みは尽きないであろう。だからといって「給料が高くて、休暇が多ければ……」とか「入学できる学校ならばどこでも」という安易な考えに陥らないでほしいものである。就職(あるいは進学)して何をしたいのかを考慮しながら、自分の生き方を重ねてみる機会が今この時なのだ。悩んで当然であり、誰もが一度はとおる進なのだ。社会で通用する力があるのかと、なんとなく不安に駆られるのは誰にもあることである。不安を自信に変えるにはどうすればよいのか。誰かがなんとかしてくれるなどとは考えないことである。「自分を仕立てるのは自分しかない」のだ。自分を仕立てるために進路選択で必要なことをいくつか挙げてみる。

(1) 学力の充実を図る

重要

高校生として備えるべき学力を身に付ける。「勉強はどうでもいい」では恥をかきだけである。地道な努力は、学校の授業を大切にすることから始まる。社会に出てからこそ本当の勉強が要求される。学ぶ姿勢は常に求められる。

(2) マナーを身に付ける

「実るほど頭をたれる稲穂かな」の一語に尽きる。社会生活をともにするうえで必要な言葉遣い、身だしなみ、態度・行動を身に付けること。これらは、ふだんからマナーを身に付けるべく、心配りがなければならない。社会は実力がものをいう。「挨拶とお辞儀は人生のパスポート」なのだ。

(3) 10パーセント、30分

心豊かな人間になるように心掛けることである。お小遣いの10パーセント相当分は本を読むことである(購入しなくとも、図書館を利用すればよい)。また、世のなかの動きに無関心では困る。一日30分、新聞に目を通すと顔つきが変わってくる。



(4) 健康であること

体力がなければ、やりたいこともできない。

これだけである。

確かに「あいさつ」も大切であるが、君たちの進路を支えるのはあくまでも「学力」、それを忘れてはならない!! (八幡)

川江美奈子!!

●川江美奈子というシンガーソングライターがいる。久し振りにレターズ2に愛に帰ろうというアルバムが出た。ピアノの弾き語りや歌う歌手だが、一青窈、今井美樹などに曲を提供する作曲家でもある。この人の歌唱力は絶品である!人の歌にコーラスをつけるのが好きみたいで、いろいろな歌手のバックでハモっている。それがまたいい声なのだ。図書室で音楽の先生に紹介したところすいぶん気に入ってくれたのもいい思い出。入ったこのアルバムを聴きながらパソコンを打っている。確かに上手い。八が一番注目している歌い手だ。今

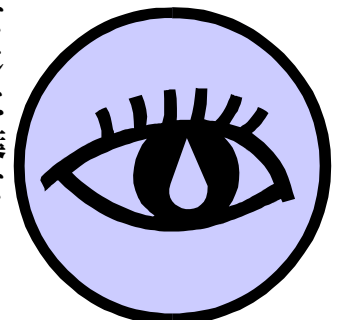


目くじらを立てる?

大学時代にアメリカ文学を教えていただいた恩師サンフォード・マロヴィッツ教授(ケント州立大学)からいただいたクリスマスカードに、「めくじらをたてる、という日本語は「くじら」あるいは「くじらの目」と何か関係があるのか?」という質問を受けて、はたと困った。「他人の欠点を探し出してとがめだてをする」(日本国語大辞典)意味の成句だが、目に鯨が立つわけはなし、一体くじらと関係があるのか?私の愛用する『新明解国語辞典』では「くじら」は「すまくじら」の略。すみっこの意」とある。早速図書館に向かい調べてみる。

●このことばは二つの言葉が混同してできたと考えられる。すなわち、目を立てる(注意してみる)と、くじりをする(えぐり取るようにする)とが、混ざったのだと言われている。鯨は当て字。(『語源②面白すぎる雑学知識』)

●辞書類は、「目鯨」は「目尻」のことだと教えるが、「めじり」が「めくじり(めくじら)」に変化するとは考えられない。第一、「目鯨を立てる」というつながりでしか使わない。では「目くじら」とは何のことだろう。これは「目を立てる」(注意して見る)と「くじりをする」(えぐり取るようにする)とが混線してできた言葉ではないか。(柴田武『知ってよう知らない日本語2』) いやはや、日本語も難しい。



通訳になりたい?!

英語好きの生徒から、「英語を生かした職業に就きたいが…」と相談を受けることがある。英語がちょっと好きなくらいで、また大学へ行けば英語がペラペラ喋れるようになると考えるのは甘い考えであることなど、を話して聞かせることにしている。そうたやすい話ではない。「死にもの狂いの勉強」が必要だ。

2001年9月11日、あの同時多発テロの日（なぜ9/11だったのか分かる?）、NHKのテレビ画面で世界貿易センタービルの倒壊を同時通訳で伝えていたのが新崎隆子（しんざきりゅうこ）さん。『通訳席から世界が見える』（筑摩書房）の著者でもある。彼女が通訳になりたい人たちのためにアドバイスをしているので紹介したい。

「人間せつば詰まるとなるとかなるものです。「私なんか、どうせダメ」と思ってしまうと絶対にダメ。私の場合、同世代の通訳者がみな帰国子女だったり留学経験者だったりする中、日本の公立の学校を出たごくごく平凡な経歴。でも、仕事をしていなければ自分には何も残らないし、家でつらいことを思い出すばかりでしたから。何とか次につなげなくては、普通の人々が80%の力でやるところを、100%、120%の力を出してやっていたんです。人から見たら、鬼気迫るものがあったと思いますよ。」「英語を生かした仕事に就きたいから、と言う人がいますが、ただそれだけでは通訳を志す動機としては弱いです。通訳とは裏方の仕事なので、自分が表に出て喋りたい人には向きません。人と人のコミュニケーションが成立することを自分の喜びとすることができる人でないと難しいですね。帰国子女の人は一見有利そうに見えますが、レベルの高い英語をどこまでこなせるかが問題です。日常的な英語だけでなく、時事問題について英語と日本語で理解し、表現しなければならぬわけですから。帰国子女か否かにかかわらず、生まれつき言語に対する感受性が鋭いことが大切です。」「通訳はプロになっても毎日が勉強ですから、知識欲旺盛な人がいいですね。それから、体が丈夫なこと。本番中にゴホゴホせきをしていたりしては務まりませんから。」

これらの言葉の中に、通訳になるための秘訣がみんなちりばめられている。お分かりか？

- | | | | | | | | | | |
|---|---|----|---|---|---|---|---|---|---|
| ⑤ | く | ④ | て | ③ | 喜 | ニ | ② | こ | ① |
| 体 | こ | 言 | る | 分 | び | ケ | 人 | と | 「 |
| が | と | 葉 | 分 | 野 | に | ー | と | と | 私 |
| 丈 | の | の | 野 | に | で | シ | と | と | な |
| 夫 | セ | セン | も | 外 | き | ヨ | の | 思 | ん |
| な | ス | ス | 興 | の | る | ン | を | わ | か |
| こ | を | を | 味 | あ | こ | を | コ | な | 、 |
| | 磨 | 磨 | が | ら | と | 我 | ミ | ど | う |
| | | | 持 | ゆ | こ | が | ユ | い | |

通訳になるための5か条

内藤国雄の回想…

●これは将棋プロ棋士の内藤国雄9段が自分の棋士人生で一番心に残っていることを語った言葉です。この中原誠はその後永世名人となり大活躍したことは言うまでもありません。「一流は一流を知る」、私がよく好んで生徒に話して聞かせる逸話です。



「初めてタイトルをとった第15期棋聖戦の対局の時でしたけど、僕は5分間の休憩時間をとってトイレに立っただけですわ。トイレの戸を開け、ふと足元を見たらスリッパがキチンと揃えられているんですわ。つま先を中に向けて、あとから入ってきた者が履きやすいように。びっくりしましたね。実は、僕が入るほんの直前に、対局相手の中原誠がトイレに立っただけです。つまり、このスリッパを揃えたのは中原本人ということですよ。それまでに何度かトイレに立ったとき、いつもスリッパがキチンと揃っているんで、これはここの旅館の女中さんがなおしているんやろうと思っただけです。それがそうやなかった…。それが分かった瞬間、愕然となりましたね。

タイトル戦に限らず、勝負というものは厳しいものでしてね。たいていの棋士は、休憩をとって盤から離れ、頭を冷やすもんですわ。それでもたいがいのは頭の中からは「将棋」がはなれんわけや。あーでもない、こーでもない、と構想を練ってるんです。まして、トイレのスリッパがどちらの方向を向いていようとかまへんのですわ。普通の棋士なら。それどころか、ついうっかりスリッパを履いたままトイレから出てきてしまうとかね。僕なんぞは、座敷にまで履いてあがろうとして、ハッと気づいたことがあるくらいやからね。ところが中原はそうやなかった。あとから入って来るものために心配りまでしてるとは…。その心のゆとりで、思わず圧倒されてしまいました。こいつは近い将来、棋界の第一人者になれる男や、と直感で分かりましたわ。こんな器の大きな男やったら、そうやって欲しいとも思った。そんな思いでスリッパを眺めていると、自分の「将棋」がふと見えてきたんやなあ。将棋というのは不思議なものでしてね。将棋を知り尽くしたプロ棋士が、全く同じ陣形で打ち始め、それでも勝ち負けが決まるわけでしょう。これは、どれだけ先を読めるかという「知」的な部分だけで決着がつくんやなくて、知も情も意もその全てをかけた勝負なんですわ」（内藤国雄談）

